

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 22 年 6 月 4 日)

公治長第五

10 子曰く、吾^{しいわ} 未だ剛者^{われ いま ごうしゃ}を見ずと。或^みひと^{ある}と^{こた}対^{いわ}えて曰く、申^{しんとう}根^{しいわ}ありと。子曰く、根^{とう}や^{よく}慾^{いづく}あり。焉^{ごう}んぞ^え剛なることを得んと。

剛者とは強い人間です。単純に力が強いというのではなく、意志が強固で何ものにも曲げられないという意味です。

孔子が「私は未だ、意志が強固で強い人間を見たことがない」言いました。

或人が答えました。「申根がいるではありませんか」

孔子言うには、「申根は私欲がある。欲の強い人間は欲につられて簡単に動いてしまう。」意志が強固でなければならぬにもかかわらず、欲につられて行動が変わってしまうのは剛者とは言わない。

これを現代に当てはめれば、マスコミでは小沢さんが剛腕と言われます。孔子に言わせると、小沢さんは剛者ではありません。欲につられてマンションをいくつも買ったりするような人物は剛腕とは言わないでしょう。周りを見渡すと、こういう人間は結構いるのではないかと思います。

11 子貢曰く、我^{しこういわ} 人の諸^{われ}れを我^{ひと}に加^こうるを欲^{われ}せざるは、吾^{ほっ}も亦^{われ}諸^{また}れを人^{ひと}に加^{くわ}うる無^なからんことを欲^{ほっ}すと。子曰く、賜^{しいわ}や爾^しが及^{なんじ}ぶ所^{およ}に非^{ところ}ざるなりと。

「他人が私に対して仕掛けて欲しくないと思うことは、自分も又、人にはしないようにしたいものだ」と子貢が孔子に言ったところ、

孔子曰く「それはお前には出来ない相談だ」と言いました。

似たような文章で「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」という文章が論語の中にあります。自分が人からやられたら嫌だと思ふことは、人にもやらないようにしたいという意味です。似ていますが、かなり非なるものです。

渋沢栄一曰く、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」は出来るけれども、「人の諸れを我に加うるを欲せざるは、吾も亦諸れを人に加うる無からん」は、私にはまだ出来ない

とあります。前者は自己を主眼としていますから実行しやすいところがありますが、後者は他人を主眼としているので実行するとなるとなかなか難しいです。渋沢栄一はこの両者の間には恕と仁との差があるとも述べています。

12 子貢曰く、夫子の文章は得て聞くべし。夫子の性と天道とを言うは、得て聞くべからざるなり。

子貢が言うには、「孔先生の文化についての考えは聞けたけれども、人間の本性と天の道理については、深遠な真理のようなものなので自分では孔先生の教えは理解できない」

今の自分に当てはめれば、坦道先生の色々な考えは聞けて納得出来てはいるけれども、坦道先生の吟道に関する真髓のようなものは私にはまだ分からない、というように解釈をしました。

13 子路聞くこと有りて、未だ之を行ふ能わざれば、唯聞くこと有らんを恐る。

子路は孔子から教わったことを一所懸命実行しようとしている。ただ、実行する前に次の教えを聞くということは、子路は恐れている。

教わったことが出来ない間に次のことを教わると、一つができないのに二つは出来るものではない。だから一つ教わって実行してから、次のことを教わりたいと思っている。

教える孔子の立場からすれば、これは可愛いやつと見えると思います。しかしこういう人物はなかなか今の時代、いないだろうと思います。

14 子貢問いて曰く、孔文子は何を以て之を文と謂うやと。子曰く、敏にして学を好み、下問を恥じず。是を以て之を文と謂うなりと。

孔文子は衛の人で、かなり癪のある人です。

子貢が孔子に「孔文子はそれほど素晴らしい人ではないのに、何故、文というおくり名（死者に贈る称号）が付いたのですか」聞きました。

孔子が言いました。

「生まれつき物覚えが良いし、頭の回転が速い。尚且つ学問を好んで、自分より目下の人間に自分の知らないことを聞くのをいっこうに恥じることがなかった。目下の者に質問を

して恥じない。こういう態度が良いので、文というおくり名を与えられたのだ」

鳩山さんがこういう論語を知っていれば良かったですね。分からないものは分からないと聞けばいいのに、普天間問題では終り頃になって抑止力が大事なのだと周りの人に教わって覚えた。これは下問をしなかったのではないのでしょうか。自分より目上だと思う人間に色々聞いたのではないかと思います。それでスピードが非常に遅くなったのではないかと感じます。

本日の解説は以上です。